

化学委員会（第 26 期・第 17 回）
化学企画分科会（第 26 期・第 8 回）
合同会議 議事要旨

日時：令和 7 年 12 月 25 日（金） 11：50～12：50

現地会場：日本学術会議 5 階会議室 5-A（1）

遠隔会議：Zoom（ハイブリッド）

出席者：現地／相田美沙子、石原一彰、岡本裕巳、北川宏、北川尚美、小島優子、菅裕明、菅原洋子、
鈴木朋子、玉田薫、茶谷直人、福島孝典、山本浩

オンライン／君塚信夫、所千晴、三浦佳子

欠席者：関根千津、高柳大

議事

1. 今後の活動について

1) 化学委員会合同会議の講演会について

岡本委員長より、同日 13 時から実施される講演会「国際頭脳循環」の講師の岡本祐幸および戸川欣彦について紹介された。

2) 2026 年の分子研所長招聘研究会の実施について

岡本委員長より、2026 年の分子研所長招聘会議の実施について委員に意向を確認し、6 月第 1 週ないし第 2 週で実施する方向とし、3 月までに提案を纏めることが合意された。その後、当該会議のメインテーマ案として「化学における AI 活用(AI for Chemical Science)」が挙げられ、議論のポイントや講演会の講師候補について出席者全員で意見交換を行った。

3) 初等教育向けのイベントについて

岡本委員長より菅委員に状況が確認された。また、8 月に計画されている臨時総会の前後で第三部夏季部会が実施され、その中で高校生以下を対象にしたシンポジウムを開催する案が出ていることが共有された。これらの状況を踏まえ、第 26 期での実施は見送るものの、継続して実施の可能性を検討することが合意された。

2. その他

1) 研究費の現状に関する件

相田委員より、2023 年に公開された報告「個人研究費についての実態調査 ～化学分野からの報告～」に基づき、調査の範囲を化学系から範囲を広げて実施してはどうかという提案があった。科研費が獲得できていないところに行き渡らせるにはどうすべきかという課題意識と、一人一人の研究予算に関するデータを集めることの必要性が共有された。

以上